

1. 大課題名：II 高品質・高付加価値農産物の生産・供給技術の確立
2. 課題名：水稻跡タマネギの直播栽培技術の実証
3. 実証担当機関・担当者名：滋賀県東近江農業農村振興事務所農産普及課 猪田有美
4. 実施期間：令和6年度～令和7年度、新規開始
5. 実証場所：滋賀県東近江市林田町

6. 成果の要約

本県の水稻跡圃場において、タマネギを圃場に直接播種したところ、出芽率は約90%であった。栽培期間が長くなるにつれ徐々に出芽率は低下しているが、最終収量を調査し、タマネギの直は栽培の可能性について検討する。

7. 目的

本県では、水田を活用した高収益作物として大規模栽培が可能な露地野菜であるタマネギを重点作物に位置づけている。

また、東近江地域（東近江市）では令和7年度から大規模国営圃場整備事業が実施される計画があり、その中でタマネギを高収益作物と位置づけ、作付け推進を図っている。

しかし、タマネギ栽培については、育苗、移植に手間とコストがかかることから、さらなる規模拡大や水稻経営への新規導入を妨げる一因となっている。

また、現在は水稻育苗ハウスを使用し育苗しているが、今後規模を拡大するにあたっては育苗スペースの確保が課題となってくる。

そこで、育苗の省力技術として、タマネギの直播栽培技術の確立が求められている。タマネギの直播栽培では、安定した出芽と除草対策が課題となるため、現地ほ場を用いて、タマネギの直播栽培の可能性について実証する。

8. 主要成果の概要及び考察

- (1) 早生水稻収穫後の圃場において、サブソイラー、額縁明渠、ディスクロータリでの排水対策を実施し、畝立てを行ったところ、播種時の作土の碎土率は0.5mm未満が約60%であった（図1）。
- (2) 10月22日播種の出芽率は、播種2週間後の調査から品種「もみじ3号」「ターザン」や播種溝へのもみがらの有無に関わらず、約90%であった（表1）。
- (3) 播種から2か月後（12/23）の出芽率の調査では、品種に有意な差は認められないものの、播種溝にもみがらを施用した区で有意に劣ることが認められた。
- (4) 播種から2か月後（12/23）の草丈の調査では、品種やもみがらの有無による有意な差は認められなかった（表2）。
- (5) 播種から年内の雑草の状況は、土壤処理剤やキュウホーによる中耕除草機の使用により、ほとんど生えていない（データ略）。

9. 問題点と次年度の計画

現段階では特に問題なし。

10. 主なデータ

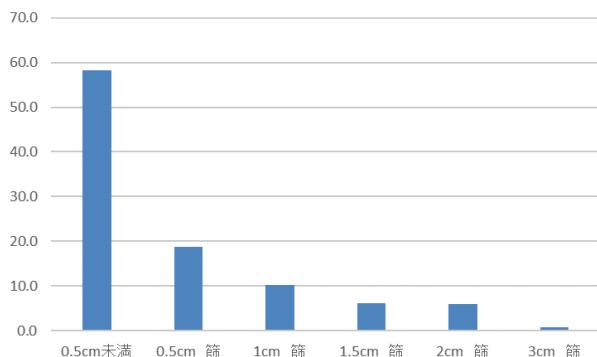


図 播種時の碎土率 (%)

表1 出芽率 (%)

試験区	品種	11月5日	12月23日
1	もみじ3号	89.4	86.9
2		86.1	74.7
1	ターザン	92.2	89.7
2		86.9	66.7

※角変換後に統計処理を行った。

二元配置分散分析結果により※は1%水準で有意差があること、nsは5 %水準で有意差がないことを示す。

分散分析結果(12/23)

要因	p 値	判定
品種	0.6575	ns
もみがら有無	0.0082	※
交互作用	0.375	ns

表2 草丈 (cm)

試験区	品種	11月29日	12月23日
1	もみじ3号	6.9	8.5
2		7.5	8.7
1	ターザン	6.7	8.1
2		6.9	8.4

分散分析結果(12/23)

要因	p 値	判定
品種	0.6575	ns
もみがら有無	0.0082	※
交互作用	0.375	ns

※二元配置分散分析結果により※は1%水準で有意差があること、nsは5 %水準で有意差がないことを示す。

(参考データ)

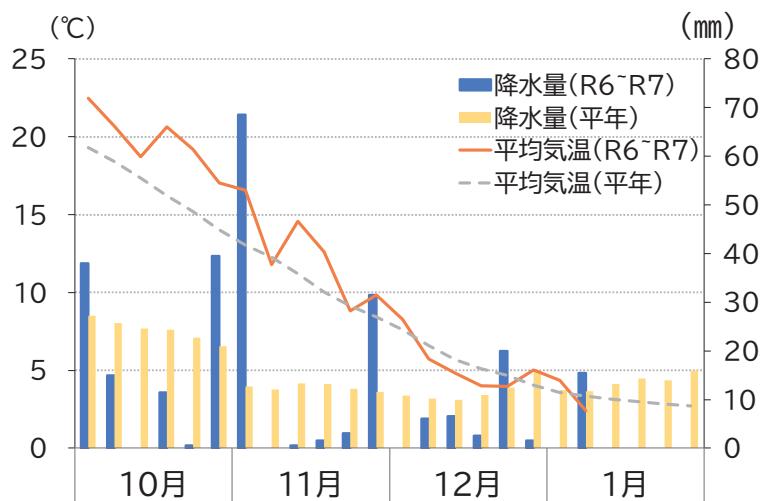


図2 気象データ(東近江市)